

# 自ら考え、自分の夢を語れる生徒の育成 ～個を育てるキャリア教育の充実を通して～

秩父市立大滝中学校

## 1 研究の構想

### (1) 学校教育目標

- ア 進んで学習する生徒
- イ 思いやりのある生徒
- ウ 健康でたくましい生徒

### (2) めざす学校像

郷土を愛し、夢や志を育む学校

### (3) 研究主題

自ら考え、自分の夢を語れる生徒の育成～個を育てるキャリア教育の充実を通して～

### (4) 仮説

全教育活動を通して、個を育てる指導と基礎的・汎用的能力を高める教育活動を充実させることで、自ら考え、自分の夢を語れる生徒が育つであろう。

### (5) 仮説検証のための手立て

- ア 個を育てる指導を通して、基礎的・汎用的能力を高める授業の指導
  - (ア) 指導力の向上とキャリア教育の視点を位置づけた教育計画の工夫
  - (イ) 生徒の主体性を伸ばし、個を育てる授業(教科・領域)の実践
- イ キャリア教育と関連づけた個を生かした行事等への工夫
  - (ア) キャリア教育との関連の明確化と系統的な指導の工夫
  - (イ) 個を育てる指導を重視し、小規模学校の特色を生かした行事等の実践

## 2 具体的な取組

### (1) 生徒の実態把握

- ア キャリア教育アンケートの実施
- イ 調査結果の個別分析

### (2) 個を育てる指導を通して、基礎的・汎用的能力を高める授業の取組

- ア 指導力の向上とキャリア教育の視点を位置づけた指導計画の工夫
  - (ア) 理論研修
  - (イ) キャリア教育の視点を位置づけた指導計画
- イ 研究授業と研究協議会(数学科)

### ウ 公開授業と授業研究

理科、社会、音楽、道徳で実施

### (3) キャリア教育と関連づけた個を生かした行事等への取組

- ア キャリア教育の明確化と系統的な指導の工夫
  - (ア) 行事等におけるキャリア教育の視点を明確にした行事取組表
  - (イ) 行事等、全教育活動を通じた系統的な指導の工夫
- イ 個を育てる指導を重視し、小規模学校の特色を生かした行事等の実践
  - (ア) 基礎的・汎用的能力の構成
    - ・人間関係形成・社会形成能力



- ・自己理解・自己管理能力
- ・課題対応能力
- ・キャリアプランニング能力

(イ) 小規模学校の特色を生かした行事等の取組

- ・ 離任式
- ・ 川越校外学習
- ・ 社会体験チャレンジ事業
- ・ 宿泊体験セミナー
- ・ 体育祭
- ・ ふれあい祭り
- ・ 3年生を送る会
- ・ 神楽の継承
- ・ 音楽朝会
- ・ 床ピカ運動



### 3 成果と課題

(1) 「生徒の実態把握」について

《成果》調査結果を個別に分析することで、個を育てる指導を行うことができ、小規模学校の特色を生かした取組（授業・行事）に結びつけることができた。

《課題》分析結果の個人差が大きいので、全体と個別の指導場面と内容を検討して実践する必要がある。

(2) 「基礎的・汎用的能力を高める授業の取組」について

《成果》「キャリア教育の視点」と「個を育てる指導」を意識した授業を実践することで、基礎的・汎用的能力を高め、勤労観・職業観の育成を図れた。また、指導案に「研究主題との関連」、本時の展開に「キャリア教育の視点」「個を育てる指導」を位置づけたことで、同一步調で授業を実践することができた。

《課題》個を育てる指導を充実させることで、基礎的・汎用的能力を高める授業の実践を目指す必要がある。

(3) 「キャリア教育と関連づけた個を行かした行事等への取組」について

《成果》行事ごとに高めたい「基礎的・汎用的能力」と「個を育てる指導」を明確にすることで、共通理解のもと、計画的に指導を行うことができた。また、生徒の発達段階を意識して教師が指導を行うことで、取組を重ねるごとに行事を充実させることができた。

《課題》閉校に向けた取組や、荒川中学校との交流活動を充実させるための検討を重ねる必要がある。

◇このような取組を通して、基礎的・汎用的能力を高めることができ、「夢を語る生徒」を育成することができた。

(担当 教諭 内田達雄)

# 学力向上と豊かな心の育成 ～種をまき、水をやり、しっかり見届ける教育～

## 秩父市立荒川中学校

### 1 研究の概要

荒川地区小・中三校では共通の研修主題「学力向上と豊かな心の育成」を掲げ、研修を進めている。これは、小・中のギャップを取り除くと共に、同一歩調で研究を進める意図を持っている。合同研修や連絡会、授業参観を密に行い、お互いの実態把握や課題等を共通理解しながら、課題解決に向けて取り組んできた。また、副題を「実践への基本的な考え方～種をまき、水をやり、しっかり見届ける教育～」として、本研究の道筋とした。今年度も引き続き3つの研究組織（「言語活動の充実」「心の教育」「学力向上」）を設け、より具体的で充実した実践を目指して取り組んでいる。

### 2 具体的な取組

#### (1) 「言語活動の充実」部会

美しい言葉にふれることは、心を豊かにする。また、言語能力を高めさせることもでき、言語活動の充実にもつながる。言語活動部会では、「ことば」にふれる取組の充実を図った。

ア 「今月の詩」…毎月、生徒の状況を考えながら詩を選び、学級で紹介するとともに、全学級と廊下に掲示している。また、昼の校内放送で、放送委員が朗読している。

イ 学級での言語活動の推進…朝の会、帰りの会、清掃の反省会等、毎日の1人1人の発表を、発表の仕方の例を示した上で、しっかり行わせる。

ウ 委員長サミットや委員会発表の充実…生徒会と委員長が集まり、荒中をより良くするための方策について、積極的に意見を出し合う場を設けた（年4回）。また以前からある委員会発表（生徒朝会）の発表の仕方についても、工夫を図り、改善させている。

#### (2) 「心の教育」部会

規律ある態度を身に付けることによって豊かな心が育ち、落ち着いた学校生活を送ることができると考える。また、他を思いやる態度の育成にもつながると考えた。

ア 自己評価シート…社会生活を行う上で重要な12項目について、毎月振り返りを行う。結果を学級委員会で分析し、課題を見出し、翌月の努力目標を立てて取り組んでいる。

<評価項目>①登下校や始業の時間 ②身の回りの整理整頓 ③あいさつ・返事  
④思いやりの行動 ⑤優しい言葉づかい ⑥忘れ物・提出物の期限  
⑦清掃への取組 ⑧頭髪・服装・身だしなみ ⑨意欲的な授業参加  
⑩話を聞く姿勢 ⑪委員会・係の取組 ⑫家庭学習への取組

イ 大滝中との交流活動…来年度から荒川中に通うことになる大滝中の生徒が、荒川中での生活の様子を知り、安心して登校できるようにと、4回実施した。

①校内見学、授業参観、交流授業（6月）

②部活動交流体験（7月・夏季休業中）

③交流授業及び保護者の参観（11月）

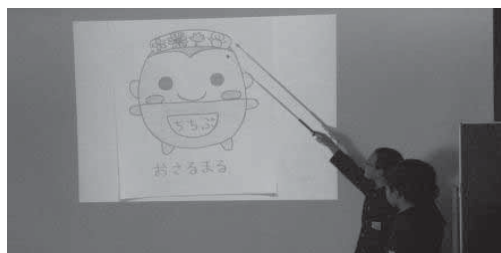
④新入生を対象にした入学説明会に参加（2月）

ウ キャリア教育の研修、実践…キャリア教育のあり方について全員で研修した後、1年生を対象に、「未来 起業企画 in 秩父」というテーマで授業研究を行った。

エ 不登校や特別支援教育への取組…全職員で共通理解のもと、全員で協力して支援に当たっている。



大滝中との  
交流



<未来 起業企画 in 秩父>で起業プランを発表

### (3) 「学力向上部会」

- ア 家庭学習への取組…「家庭学習をどのように進めればよいかわからない。」といった生徒のつまづきを解消するために、年度当初に「家庭学習ガイド」を配布し、担任および教科担当が指導している。
- イ 宿題チェックボードの活用…教室の背面黒板の横に設置してある「宿題チェックボード」を活用し、毎日バランスよく宿題を出すことによって、家庭での学習を習慣づける。
- ウ 授業改善、授業モデルの作成…生徒がわかる授業の展開を目指して、「本時の課題」の提示を徹底させる。また、「聞く」「考える」「話し合う」「発表する」「まとめる」を明確にした授業モデルの研修を行う。教師の指示を端的かつ的確に伝えることで、生徒は主体的に授業に参加でき、理解につながる。さらに、ユニバーサルデザインにも視点を当てた授業モデルの研修を行った。
- エ A r a c h uゼミ…定期テスト前の放課後に自ら学ぶ機会を設け、学ぶ楽しさや達成感を味わわせることによって学習意欲を高めると共に、一人一人にきめ細かな指導を行い、学習習慣を確立させる。昨年度から取り入れている「ボランティア先生」（生徒が先生役になり、自分の得意分野を教える）をさらに充実させた。ボランティア先生だと気軽に質問することができるので、参加した生徒にも好評であった。普段の授業でも「わからないことをそのままにせず、先生や友達に聞いて解決する。」という姿勢が自然にできてきている。
- オ がんばろうキャンペーン…定期テスト前1週間を学習強化週間として位置づけている。クラスごとに一人当たりの平均学習時間を算出することで、各生徒が自分の学習状況を確認し、目に見える努力目標の一つとする。



＜三校合同研修会＞ライフスキル研修  
「威圧的な行動に対応するには？」

### (4) 小・中連携の取組

今までの取組を深め、さらなる小・中の連携に努めた。

- ア 共通資料「家庭教育重点ポイント」を活用し、中1ギャップの軽減を図る。
  - イ 出前授業を実施し、小・中教育課程のつながりを意識するとともに、授業技術の共有を図る。
  - ウ お互いの授業を参観し合い、生徒理解や情報交換に役立てる。
  - エ 夏季休業中に三校合同研修会を行い、教員同士のつながりを強化するとともに、荒川地区の実態に応じた研修を行う。今年度はライフスキル教育の授業モデルの研修を行い、共通理解を図った。
  - オ 夏季休業中の小学校のサマースクールに中学生が参加し、学習補助を行うことで、児童と生徒の関わりを持ち、中1ギャップの軽減を図る試みとした。
- その他、入学説明会や1日体験入学、小・中連絡会を行っている。

### (5) 学力向上具体計画

授業のチェックポイント、各教科の具体的な取組、教育活動全般における取組について、具体計画を作成し、実践している。全体で共通して取り組む内容だけでなく、他教科でどんな取組をしているのかを把握することによって、連携をとりながら進めることができた。

## 4 研究の成果と課題

研修テーマの副題である「種をまき、水をやり、しっかり見届ける教育」を、全職員が、教科、領域の特性に合わせてしっかり実践することができた。その結果、「基礎基本」の力は概ね習得させることができてきている。しかし、文章題を理解する力や、自分の考えを自分の言葉でまとめ、表現する力は、まだまだである。今後は、さらに言語活動をも視野に入れた授業モデルの研修を行っていきたい。また、保護者も職員も生徒も、みんなが「家庭学習」が不足していると感じている。各教科で課題の与え方を工夫しながら、効果的な家庭学習ができるよう、学校全体で取り組んでいきたい。

(担当 教諭 大澤由美子)



## IV 初任者としての1年

「大事を成さんと欲する者は  
まず小事を務むべし  
小を積みれば大となる」

二宮 尊徳

# 初任者としての1年を振り返って

## 秩父市立秩父第一小学校 栄養教諭 菊池早紀子

### 1 はじめに

3月末に埼玉に引っ越し、不安でいっぱいだったあの頃から1年が経とうとしている。1年をふり返って思い出すのは、着任初日からFAXを送ったり業者さんが挨拶に来たりと、何がなんだかかわからないまま給食がスタートしたことだ。初めは、困ったときに教えてくださる人が近くにいないことや、一人職としての難しさを感じることも多くあったが、日が経つにつれ楽しさや喜びを感じることも増えてきた。

### 2 給食管理

栄養教諭といえども、まずは「給食管理」である。11名の調理員さんと共に1250食の給食を提供することが、私の使命だと感じた。右も左も分からなかった4月とは比べものにならないほど、この1年で多くのことを学ぶことができた。調理場の皆さんには、栄養教諭1年目としてあたたかく、そして優しく出迎えていただいた。私が一人で引っ張っていくのではなく全員で動かしていく…そんな気持ちにさせてくださった調理場のみなさんには、とても感謝している。常に「調理員さんのおかげで給食が提供できている」という感謝の気持ちを忘れずに、調理員さんが少しでも働きやすく、そして全員が「安心安全な給食を提供する」という目的を持って今後もがんばっていききたいと思う。

### 3 食に関する指導

今年度は、TTで4回研究授業や示範授業に関わった授業をさせていただくことができた。他にも、ゲストティーチャーとして、いろいろな教科の授業に参加することができた。

「食は命」ともいわれるように、生きていくために食は不可欠である。その基本にもなる「食」について少しでも興味や関心を持ってもらえるよう、授業だけでなく委員会活動や掲示物を充実させていきたいと思う。また、食育は学校だけでなく家庭や地域との連携も大切になってくる。給食は1年の6分の1しか提供しないため、家庭での食事がとても大きい。食育だよりや給食試食会等を活用し、食に関する情報提供を積極的に行っていきたいと思う。



### 4 おわりに

この1年間は、全てが新しく新鮮なことばかりだった。何より一人職でも働きやすい雰囲気を作ってくれた本校職員の先生方に、感謝の気持ちでいっぱいである。初任者栄養教諭研修の指導者として栄養教諭の江野裕美子先生には、より実践的なことを教えていただきこの日を迎えることができた。これからも栄養教諭として初心を忘れず、この1年で経験したことを糧に自己研鑽に努めていきたい。

# 初任者としての1年を振り返って

秩父市立秩父第一小学校 教諭 菅野晴仁

## 1 はじめに

4月から初任者として教壇に立ち、早一年が過ぎようとしている。時間が過ぎるのが早すぎて、あまり実感がない。本当に初めてのことが多すぎて、失敗も周囲が呆れるくらいたくさんした。しかし、秩父第一小学校の先生方の支えのおかげで何とか今日を迎えることができた。



## 2 学級経営と初任者研修

秩父第一小学校の子どもたちは、外遊びや話し合い活動などに非常に積極的で純朴な子どもが多い。担任の私のこともすぐに受け入れてくれた。しかし、臨時的任用教諭を2年間していたものの、担任の経験はほぼゼロに等しいため、不安ばかりがつのる毎日だった。「自分で本当に良かったのかな。今日の授業はこの進め方でいいのかな。」などの不安も多くあった。そうした思いでいるうちに、初任者研修が始まった。同じ立場で日々仕事をしている仲間たちと親しくなるのに多くの時間は必要とせず、研修では指導技術や学級経営について勉強するだけでなく、課題について話し合ったり悩みを言い合ったりして、いつしか心の支えと言っても過言ではないほどのものとなっていった。また、研修で学んできた内容を自級の授業に反映させ活用することも徐々に増え、それに伴って子どもたちの不安と不満そうな表情も、少しずつ明るく和やかなものになってくるなど、変化が見られるようになり、ほんの少し初めの不安が晴れるような思いがした。

## 3 教科指導

道徳は、大学時代の教育実習で研究授業を行った時から自分にとってどこか特別な領域との思いがあった。勉強してうまくなりたいと真っ先に思った領域でもあった。しかし、何が良くて何がだめなのかも不透明であり、研修で学んだことを実際の授業で実施したものの、毎週のように「これで良かったのかな、これは無駄だったかな。」と思うことが多くあった。そんな時、初任者研修の選択教科で道徳を学ぶ機会があり、そこで出会った講師の先生から、道徳では子どもたちに二つの選択肢を与えて、葛藤させることが大切であると学ぶことができた。また、簡潔かつ分かりやすいワークシートをいただき、授業の流れや掲示物についてのアドバイスをいただくこともできた。講義や演習を受けるうちに、子どもたちを引きつける方策が少しずつ分かり、後日土曜参観にて、学んだことを全て活かした授業を行うことができた。主人公の少年になりきって、漢字テストの採点ミス先生に正直に伝えるかどうかという心の葛藤を、二つの選択肢を与えての意見交換を取り入れて授業を実施した。授業後には保護者の方が近くに寄ってきて「先生、授業おもしろかったですよ。」と声をかけてくださるなど良い評価をいただいた。また、子どもにも変化が見られ「先生、今までは黙っていたけれども、今度からは正直に言おうと思います。」という子どもの声も聞くことができた。後日、本当に採点ミスを教えてくれるようになり、心や道徳の授業についてもっと研究していきたいという気持ちがより湧いてきた。

## 4 おわりに

この一年間、学んだことや刺激を受けたことは数え切れない。慣れない土地での勤務でもあるため、まだまだ不安でいっぱいの日々だが、一日一日を大切にして、真剣に、かつ毎日を楽しんで過ごせるように頑張ろうと思う。



# 初任者としての1年を振り返って

秩父市立花の木小学校 教諭 堀口直美

## 1 はじめに

花の木小学校に着任し、早くも1年が過ぎようとしている。民間企業や臨時的任用教員を経て、この4月から新採用となった。緊張していた初日、職員室で先生方に優しく声をかけていただき、ほっとしたのを今でもよく覚えている。この1年間、先輩の先生方や子どもたち、保護者の方々に助けられ、たくさんのことを学び充実した日々を送ることができた。

## 2 学級経営と生徒指導

「子どもたちが居心地のよい温かいクラス」を目指し学級経営に取り組んできた。子ども一人一人との会話を大切にし、笑顔で接するように努めてきた。休み時間は一緒に遊ぶことで、授業中に見せない表情や考え方がわかるようになってきた。しかし、子どもたちがささいなことでトラブルを起こし、悩むことがたくさんあった。そのたびに指導教員、学年主任や多くの先生方にアドバイスをいただき、一つ一つ解決していくことと、子どもたちと向き合って話をしていく大切さを学ぶことができた。

また、「褒めること」でクラスの雰囲気がよくなると教えていただいた。自分に余裕がないと、褒めることより注意が多くなってしまうので、心に余裕をもって過ごしていきたい。

## 3 教科指導

教科指導は本当に難しく悩むこともたくさんあった。どの子どもにも「わかりやすく楽しい授業」を目指し、日々取り組んできたが、子どもに伝えたいことがうまく伝わらず、子どもの考えをうまく引き出すこともできず、悔やんでばかりだった。そんな時、示範授業を見せていただき、子どもたちへの興味・関心を引きつけるための工夫や発問の仕方、間の取り方などとても勉強になった。子どもたちが「できた」「わかった」「楽しい」を味わえる授業にするため、教材研究を重ね、周囲の先生方からご指導いただきながら、今後も努力していきたい。

## 4 おわりに

初任者としてのこの1年間は、大変貴重なものとなった。校内研修だけでなく、教育センターや様々な施設での研修を通して、教師にとって大切なことをたくさん学ぶことができた。このような経験ができたのも、校長先生、教頭先生、指導の先生、学年主任をはじめ花の木小学校の先生方のおかげだと思う。困っているときに助けてくださった先生方や、保護者・地域の皆さん、そして私を成長させてくれた子どもたちに感謝の気持ちでいっぱいである。今後も、何事にも一生懸命に取り組む姿勢と感謝の気持ちを忘れず、日々学び続けていきたい。



# 初任者としての1年を振り返って

秩父市立西小学校 教諭 大塚史子

---

## 1 はじめに

4月から母校である秩父市立西小学校に着任した。民間企業、臨時的任用教員を経て初任者としてスタートするにあたり、今までの経験で得たものを、新たに学び直す気持ちで研修に臨んだ。

今年度は、特別支援学級を担任している。特別支援学級は、まず所属児童の障害の特性、保護者の願いを確認した上で指導計画を立てる。児童との信頼関係を築くこと、児童の特性を理解することは、言葉でのコミュニケーションが可能な通常学級と比べると困難である。

「特別支援教育は教育の原点」、私が特別支援教育に関わる際に教師だった父から言われた言葉である。個々の特性を理解し児童に合った指導を行うことは、すべての児童の指導に共通することである。特別支援学級で指導する中で学び得たことを、これからの教師生活に役立てていきたい。

## 2 教科指導

小学校での教科指導は、学習の基礎基本の定着だけではない。未知のことを知る喜びを味わわせる、学びに対する意欲付けを行うことも重要な役割だと考えている。初任者研修で強く感じたのは、教材研究、教具の工夫の重要性である。研修で紹介していただいた展開例や教材教具はとても魅力的で、教師の自分でも楽しく感じた。今までの自分の指導を振り返ると、児童にわかりやすい指導を行うように意識はしていたものの、学ぶ楽しさや児童の学習意欲を高めるような指導ではなかった。その結果、学習は予定通りに進行しても、児童の記憶に残るような指導はできていなかったと思う。示範授業や校内研修、機関研修で学んだことを、指導に取り入れ実践してみると、児童が笑顔で意欲的に学習に取り組んでいた。これからも研修での学びを生かし、児童が達成感や成就感を感じられる授業づくりを行えるよう研鑽を積んでいきたい。

## 3 生徒指導

生徒指導では、「自分で考え、行動できる児童」の育成を目指した。個に対する指導だけでなく一斉指導でも大切なのは、自分はどうすべきなのかを一人一人が主体的に考えることである。自分の行動に意味を持たせる中で、他者への思いやりの気持ちや、自分を律することができるように指導している。今後も児童の大切な時間を預かる自覚を持ち指導をしていきたい。

## 4 おわりに

初任者として多くの研修に参加させていただき、学びの多い充実した一年となった。教科指導、生徒指導、小学校教員としての在り方、教育公務員としての在り方など様々なことを改めて学ぶことができた。また、臨時的任用教員としてやってきた自分の指導を振り返り、課題を明確にすることができた。自分に学びを与えてくださる全ての方へ感謝の気持ちを忘れずに、これからも精進していきたい。

# 初任者としての1年を振り返って

秩父市立南小学校 教諭 井上直美

---

## 1 はじめに

引退する年齢に近くなってからの再挑戦。

子育てと親の看病で退職した20年前には、再びこのような日が来るとは思わなかった。何時からでも社会参加できる「多様な機会のある社会」を有難く思うと共に、たくさん勉強する機会を頂いたことにも感謝の気持ちでいっぱいだった。しかし反対に、このような自分が研修を受けることで、多くの先生方に多大なご負担をおかけすることへの申し訳なさでいっぱいだったのも事実である。なるべく皆さんにご迷惑をおかけしないようにと、決意を新たに4月のスタートであった。

## 2 学校生活

担任した1年生は35人。本当に可愛い。皆家庭で大事にされて、有り余る生命力で懸命に成長している。その健気さを見ると、何よりも先に愛おしい気持ちが湧き上がる。唯々、この子どもたちの幸せな未来を願うばかり。しかし、教師としては、母親の役も残しつつ、厳しい社会生活に慣れさせていかなければならない。加えて、義務教育の始まりであるこの1年間、学校生活の楽しさも十分に味わわせてあげたい。研修と授業の両立はできるのだろうか、やや弱気になっていた私を助けてくださったのは、やはり校長先生をはじめ先輩先生方だった。担外の先生には研修時の授業をお願いし、研修指導の先生にはいろいろとご配慮いただいた。また、目の届きにくい細かな指導は補助員の先生がすぐに対応してくださった。保護者の方々もいつも協力的で、大変有り難かった。何とかこの1年を乗り切ることができるのは、諸先生方、補助員の先生、そして、保護者の皆様のご助力があってこそのことだった。改めて、人間は一人で生きているのではないということを実感した日々であった。

## 3 おわりに

もうすぐ1年が過ぎる。実り多き1年だったことを強く感じる。これからは研修で学んだことを実践し、日々の指導に取り組んでいきたい。

この子どもたちが社会に出る頃には、日本は更に違った局面を迎えているだろう。それは必ずしも順風満帆な社会でないかも知れない。しかし、例え困難が待ち受けていても、荒波に打ち勝つだけの知力、体力と、本質を見極める物の見方を身に付けていれば、きっと乗り越えていけると信じている。そのために、授業を通してできる限りの指導をする。これが私の信条だ。残念ながら、現役として働ける時間があと僅かしかないが、こんな私が初任者研修を受けられたことは奇跡に近い幸運だと思っている。採用を決定してくれた埼玉県教育委員会、快く迎えてくれた南小の先生方、寛大なご指導をいただいた指導教官、全ての方々に感謝の気持ちをお伝えしたい。そして、そのご恩に報いるためにも、精一杯、子どもたちの正面に立って逃げない指導をしていくつもりである。子どもたちのためにある教員だから。